

2023 年度

研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研 究（本年度のみ）

ふりがな	さとう けんじ				
教員氏名	佐藤 健司	職 位	教授	学 位	修士
アルファベット表記	SATO Kenji				
専門分野		経営学、経営管理論、人的資源管理論			
研究課題	テーマ	「人間関係マネジメントおよび人的資源管理の分析とディーセント・ワークの研究を踏まえた安心・安全な働き方の研究」			
	概要	人間関係マネジメントを、時間軸、空間軸、本質軸を踏まえて行う分析と働きがいのある人間らしい仕事について分析を行う。			
本年度 研究業績	研究費	総額： 250,000 円 内訳：個人研究費 250,000 円 / 科学研究費 円 その他：京都経済短期大学経営・情報学会研究助成事業 46,000 円			
	研究テーマ	本年度は、とりわけ人間関係マネジメントに関連する諸分野の研究に取り組んだ。			
	経過と到達点	本年度は、人間関係マネジメント研究の総括的な分析を行った。筆者はこれまで、人間関係マネジメント研究に長年取り組んできたが、これに関わる論点を整理した。また、近年注目されている人間関係ウェルビーイングの分析も多面的な視点で行った。人間関係ウェルビーイングという視点は、今後職場においても注目される要素の 1 つになるであろう。また、人間関係マネジメントに関連する心理的安全性についても成果と課題についての分析を行った。			

（1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
① 英文査読論文					
② 和文査読論文					
③ 英文論文					
④ 和文論文					

⑤ 紀要論文	「人間関係マネジメント研究の意義」	2023 年 9 月	単著	『京都経済短期大学』第 31 巻第 1 号	人間関係マネジメント研究の目的は、人間関係マネジメントには相反する「人間尊重」の側面と「経営者による従業員への統率や強制力を高めていこうする」2つの側面があるという特質を示したうえで、労使が実質的に win-win の関係になるためにはどのような道筋があるのかという点について考察した。
	「人間関係ウェルビーイングーソーシャルサポートの視点からー」	2024 年 2 月 (予定)	単著	『京都経済短期大学』第 31 巻第 2 号	本稿では、ウェルビーイングの構成要素のひとつである人間関係ウェルビーイングについて考察した。ここでは人間関係ウェルビーイングを、立体的な視点から考察することは、人間関係ウェルビーイングの本質的な意義と課題を踏まえた方向性を抽出することに繋がるので、その点を中心に分析を行った。
⑥ 紀要研究ノート、専門誌記事等	「心理的安全性の2面性」	2023 年 9 月	単著	『京都経済短期大学』第 31 巻第 1 号	本稿では、心理的安全性の特徴および効果について分析したうえで、心理的安全性にはどのような課題があるのかということについて整理を行った。
⑦ 学会での口頭発表、討論者（ディスカッサント）	第 33 回労務理論学会全国大会・自由論題 司会	2023 年 6 月 24 日	単独		佐藤が司会を担当したのは、石文婧会員（日本大学院）によるスコットの賃金管理論について、國府俊一郎会員（大東文化大学）による中小物流企業の労務管理における課題 について報告を頂戴した。佐藤は、両者に対してそれぞれ具体的な問題提起を行うことによって、各議論が活性化する役割を担った。
	京都経済短期大学経営・情報学会報告	2023 年 9 月 6 日	単独		本報告では、人間関係ウェルビーイングの報告を行った。具体的な内容としては、人間関係ウェルビーイングの特徴および課題について概括的に整理を行った。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)				
⑬科学研究 助成事業 (日本学術 振興会) 申 請	※ 申請した場合は「申請」と記入。 「申請」			

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	経営学総論・人的資源管理論・経営英 書講読Ⅱ	経営管理論・マネジメント史・経営 講読Ⅰ
	演習	基礎ゼミ・ゼミⅡ	ゼミⅠ・ゼミⅢ
教育内容・方法 の工夫	実習		
	◆ 講義科目 講義科目では、学生が、対象科目についての興味・関心をいかに継続させるかということを中心においた。それぞれの科目では、できる限り具体例を盛り込み、関心をもってもらおうということと、アクティブ・ラーニングを積極的に活用した。また、経営管理論では、昨年度に引き続き、経済産業省近畿経済産業局の事業の一環として会社経営者(株式会社シュルード設計代表取締役 安達基朗氏)にご登壇いただき、普段の講義で伝えている内容の延長上の位置づけとして講義を行っていただいた。学生も、講演者の話を通じて現場のマネジメントのイメージをつかんだようである。		

	◆ 演習科目 演習科目で重点項目として位置付けているのは、学んだことを実際に活用し、実践的な解決策を提示することを念頭において運営を行っている。 基礎ゼミでは大学で学ぶということはどのようなことを意識して学ぶ必要があるのかということを、実践的な多様な取り組みを通じて身につけてもらった。 ゼミⅠでは、マネジメントの基礎をテキストで学んだうえで、アクティブ・ラーニングに取り組んでくれた。また、ゼミⅠでは昨年度に続いて、経済産業省近畿経済産業局の事業の一環として企業の代表取締役（株式会社伝統みらい 太田智子氏）をお招きし、伝統を軸とした興味深いお話をいただいた。また、太田氏に対して、「日本の伝統工芸品を世界に広める」というテーマで、ゼミ生が具体的な提案を行ったことは大きな成果になった。 ゼミⅡ・Ⅲでは、学生が、各課題に熱心に取り組んでくれた。また、ゼミ生はチームに分かれて卒論に積極的に取り組んでくれた。
	実習科目
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
⑥ 研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
② 委員長・座長 国・国際機関	
⑦ 委員長・座長 上記以外	
③ 委員・アドバイザー 国・国際機関	
④ 委員・アドバイザー 上記以外	

（2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤ 理事長・会長	
⑥ 理事	労務理論学会 理事（第11期理事）

（3）講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦ 講演者・登壇者・学会座長	

4. 特記事項（本年度のみ）

--